



各芸能の歴史等について、名前は聞いたことがあっても、どんな内容のものか知らずに観覧したのですが、パンフレットでの紹介に加え、上演前に司会の方が説明をしてくださるので、始まる前から期待が高まりました。

特に二十五菩薩来迎会の演目の時は、全国的に珍しい芸能であることや、舞台の展開に合わせて踊りの意味について団体の方が解説をしてくださったので、理解を深めながら観覧することができました。

演じられている方は小学生から高齢の方まで幅広く、演目によっては60人近い方が出演されるものもありました。

会場外のロビーには、長野県無形民俗文化財に指定されている「御影道祖神祭」で使う山車の縮尺版や、小諸市重要無形民俗文化財の「小諸八幡宮八朔相撲」の化粧回しが展示されたほか、今月初の試みとして、市内のパン屋さん6店の出張販売も行われていました。

伝統芸能の種目によっては、担い手の高齢化で伝承が難しくなってきたものもあり、後継者の育成が急務となっているそうです。会場を訪れている方たちは比較的高齢の人が多かったのですが、親子連れの姿もありました。市内の伝統芸能を一度に見られる機会はこのつどいしかないのです、より大勢の方に見ていただき、関心を持っていただきたいと改めて感じました。

今回上演された伝統芸能について興味のある方は、小諸市公民館にぜひお問い合わせください。

文・編集委員 金子 美江
写真・編集委員 桜井 大一

